

脳卒中による死亡に肥満パラドックスのエビデンスなし

脳卒中の予後は、標準的な体重よりも過体重または肥満患者の方が良好であったとする報告があるが、それが選択バイアスによる作為的な結果ではないかと議論されている。そこで本研究では、選択バイアスを排除するため、脳卒中発症後 1 カ月以内に死亡した患者に限定し、脳卒中による死亡と肥満度指数 (BMI) との関係を検討した。

対象となったのは、デンマークの脳卒中患者登録簿に登録された 71,617 例。このうち BMI に関する情報が得られたのは 53,812 例であった。71,617 例中、7,878 (11%) が脳卒中発症後 1 カ月以内に死亡し、そのうち 5,512 例 (70%) が脳卒中による死亡であった。BMI に関する情報が得られた患者の 9.7% が低体重、39% が標準体重、34.5% が過体重、16.8% が肥満であった。BMI は、脳卒中発症時の平均年齢と有意な負の相関関係を示した ($P < 0.001$)。初発脳卒中発症後 1 カ月以内に脳卒中で死亡するリスクは、標準体重群と比べ過体重群、肥満群ともに有意な差はみられなかった (ハザード比はそれぞれ 0.96、1.0)。初発脳卒中発症後 1 週間以内の死亡に限った場合も結果は同様であった。

以上の結果から、脳卒中患者においては肥満パラドックスのエビデンスはみられなかった。BMI が高い患者では、若い年齢で脳卒中が発症していた。したがって、脳卒中の既往がある患者は標準体重に戻す努力をし続けるべきであるといえる。

出典 : Journal of American Medical Association. Neurology. 2014; 71(8): 978-984